

事例番号:350307

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第四部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 36 週 5 日 ノンストレステストで遅発一過性徐脈を認め入院

3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

4) 分娩経過

妊娠 37 週 2 日

14:29 既往帝王切開後妊娠のため、選択的帝王切開により児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 2 日

(2) 出生時体重:3200g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.41、BE 5.5mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 8 日 退院

生後 7-8 ヶ月頃- 左上肢の自発運動が少ない

1 歳 0 ヶ月 左上下肢運動障害

(7) 頭部画像所見:

1 歳 0 ヶ月 頭部 MRI で、右側脳室壁の不整と脳室の拡大および右頭頂葉優位に白質容量の低下を認め、上衣下出血の所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2 名

看護スタッフ:助産師 4 名、看護師 2 名、准看護師 3 名

2. 脳性麻痺発症の原因

脳性麻痺発症の原因は、上衣下出血および脳室内出血による中枢神経系障害の可能性があるが、発症時期は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 36 週 5 日、胎児心拍数陣痛図で遅発一過性徐脈を認め入院管理としたこと、および入院中の管理(連日ノンストレス実施)は、いずれも一般的である。

(2) 妊娠 37 週 2 日に既往帝王切開後妊娠のため、選択的帝王切開術を施行したことは一般的である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

出生後の対応(酸素投与、保育器収容等)は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

発症時期が不明の脳出血による中枢神経系障害の事例を集積し、原因や発

生機序について、研究の推進が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。